

最新の医療・環境・技術の力の結集し、革新を続けることの重要性

日々、技術の進歩は止まることなく発展し続けています。歴史的に技術発展は地球環境にも大きく影響をあたえてきています。今、我々に求められる技術発展は環境破壊を防止して改善し、本来ある姿に戻すことが求められています。これは、地球環境だけでなく、人間環境についても同様の事がいえます。医療技術の発展により、健康でなくなった人でも健康に戻ることができるようになってきています。失ったものを再生し、復元する事もできるようになってきました。

一方で、技術の発展により、今までになかった人間関係の希薄化問題や、社会環境の変化が生み出す新たな問題も増加しています。医療の専門家を中心に、技術、環境分野の衆知を集めて、人々の心身の健康を第一に考えていくことが重要です。最新の医療と最新の技術の観点から最先端の環境を提言し、有識者の英知を結集して、今までにない日本の力に変えていくイノベーションの推進活動が求められます。

高齢者や障がい者、子どもの活躍の場を増やす取り組みの重要性

現在、現役を引退した高齢世代や障がいをもつ方々は、少なからず若者世代、現役世代により支えられています。一方で、障がいを持っていたり、高齢世代であったりする方の中にも、もっと自立して社会の中で活動をしたいという考えを持っている人も多いのが現状です。障がいを持っていながらも機会が無いだけで社会との繋がりを持ちたい人や現役を退いても元気に活動するスーパーシニア、アクティブシニアと呼ばれる人がいる中で、活躍の場が少ないため社会に埋もれてしまっている状況を変えていかなければなりません。アンチエイジングの取り組みや最新技術を活かした環境を提言しながら、障がい者や高齢者が、若者や健常者ともっと繋がりを持てるように企業や団体と団結して取り組むことが我々に求められています。また、障がい者や高齢者だけでなく、子どもにも焦点をあてて、未来を担う子どもが活き活きと格差なく生活できる環境の提唱と実践が求められています。

日本国内における自殺者の状況と心のケア、いじめ対策の重要性

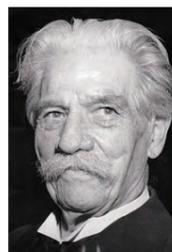
新型コロナウイルスの影響により、継続的なストレスによってノイローゼになってしまう人や自殺者の増加など、目を覆いたくなるニュースが日々飛び交っています。コロナ禍の影響は多忙面に渡りますが、人々の精神面に与える悪影響が一番怖いと言われており、メンタルケアはワクチンの開発と同等の重要性を持つと考えております。

日本においては、年初以降の新型コロナによる死者が6000人以下であるのに対し、生活困窮や育児ノイローゼ、いじめ、孤立など、社会とのつながりの中で「追い込まれた末の死」と政府が位置付ける自殺者の数は2020年約2万1000人も上り、自殺者数の方がコロナウイルスを要因とする死亡者数を遥かに上回っているのが現状です。

ストレスが多くの疾病の引き金となり得ることは周知の事実です。今後は、医療機関の皆様とご一緒にさらに健康に関する研究を押し進め、自殺者の防止、いじめや孤立を防ぐ取り組みを日本から世界に発信していくことが求められます。

地球人の全ての健康において格差があってならない

「生命への畏敬」の理念



●シュヴァイツァー アルベルト・シュヴァイツァー(1875-1965)は1875年、当時ドイツ領だったエルザス地方に生まれる。牧師の家庭に育ち、カントの宗教思想の研究によって博士号を得た神学者であり、国際的に有名なパイプオルガン奏者でもありました。30歳を期に医者への道を志し、38歳で医学の博士号を取得。医療設備が不十分であったフランス領赤道アフリカ(現ガボン共和国)に渡り、その後の生涯を発展途上国での医療活動に費やす。1952年、それまでの人道的活動や反戦・反核運動の功績により、ノーベル平和賞を受賞。その後もアフリカの医療発展に尽くし、1965年に90歳でその生涯を終える。人道的活動の実践家。

「生命への畏敬」は、シュヴァイツァーの根本思想です。「生きようとするおれの生命は、同時に、生きようとする他の生命にかこまれている。この、おおよそ生きとし生けるもの(生あるもの全て)の生命を尊ぶことこそ、倫理の根本である。したがって、生命を守りこれを促進することは善であり、生命をなくしこれを傷つけることは悪である。個人や社会が、このような生命への畏敬という倫理観によって支配されるところこそ、文化の根本がある」シュヴァイツァーは、この「生命への畏敬」を自らの活動の根本原理として、その後の生涯を人道的活動に費やす。全ての生命は「生きようとする意志」を持ったものとして、畏敬の念を持って尊重しなければならないものなのです。



METイノベーション 国際推進機構

「International Promotion Systems of MET Innovation」 (IPS of MET Innovation)

M Medicine・Medical-Welfare
医学・医療福祉

E Environment
環境

T Technology
技術



〒542-0012 大阪府大阪市中央区谷町9-2-29

北平谷町ビル6F ステラ・コーポレート内

TEL:06-6777-3833 FAX:06-6768-6788 MAIL:stella27122@gmail.com

公式ホームページ <https://www.met-innovation.com/>

branch

枝の部分

stem

幹の部分

root

根の部分

ACTIVITY CONTENTS

テーマ

「生命への畏敬」を貫くために

活動内容

- 最新医療、最新技術による健康増進と未来環境の提言と技術革新の推進活動
- 高齢者の経験を若者や子どもに継承する機会の提供、並びに高齢者や子どもの活躍できる環境の推進活動
- 恵まれない子どもたちへの支援
- 障がい者や高齢者に向けてのアンチエイジング並びにVR・AI技術の実践推進活動
- 障がい者と健常者、高齢者と若者、学生児童等の交流を深めることでの社会的自立の支援ならびに、地域ごとの活動により繋がりの輪を広げる活動

最新医療技術や環境改善による生き物へのいじめや自殺の防止、並びに身体の不自由な方への心のケア活動

障がいを持つ人やアーティストに着目して、彼らにできることや活動の場を広げる手伝いをしつつ、その作品、技術などを社会に普及させる支援活動

世界の最新技術、先駆的社会環境の成功例から、日本での社会的不平等環境の改善に向けての有識者会議及び実践推進活動

環境事業や農業など、一次産業の分野でのIT技術の推進、並びに管理のIT化推進と障がい者や高齢者、若者を繋げる活動

PHILOSOPHY 理念

「生命への畏敬」とは、アフリカの医療発展に尽くしノーベル平和賞を受賞したアルベルト・シュヴァイツァー(1875-1965)の根本思想です。彼は、全ての生命は「生きようとする意志」を持ったものとして、畏敬の念を持って尊重しなければならないものであるという考えのもとで医療活動に邁進した人道的活動の実践家です。私たちは、医学・医療福祉、環境、技術の革新を推進する機構として、これらの技術の衆知を集めて、人々の心身の健康を第一に考えて、日本の力に変えていく活動をしていきます。人々の健康に格差があってはいけない、全ての人々が健康でなければならないという理念のもとで、医療や環境、技術の力で身体の不自由な方の支援やいじめ防止、自殺防止活動を行います。昨今、新型コロナウイルスの影響により我が国においても自殺者が急増しています。いわゆるコロナ禍で、いじめによる問題、貧困の問題が増加し、社会的弱者が困難に喘いでいる現状があります。その中で一番大事な事は、医学・医療福祉・環境・技術等々の英知を結集することにより力に変えていくことです。そして、その力により、これらの問題を解決するために立ち向かっていく事が日本のみならず、世界においても非常に重要な事であり、我々はそうした英知を結集して、困難に喘いでいる、必死に頑張っている人たちへの力に変えていく活動を行なってまいります。

ハンディキャップを持つ方や、身体の不自由な方、心に傷がある方、身体は元気でも活躍の機会がない方などが健やかに過ごせるように、社会にもっと参加できるように新たな支援活動や必要とされる取り組みを進めてまいります。

MEMBER サミット実行委員会メンバー 幹部



奥 健一郎 (MET共同代表)

国連世界平和協会人権大使
一般社団法人ハートリボン協会 理事
ハートリボン大使
大阪府泉大津市教育委員会教育委員
公益社団法人三州倶楽部評議員
特定非営利活動法人日本サポーター協会常任顧問



猪口 孝一 (MET共同代表)

日本医科大学大学院名誉教授
日本血液学会理事後名誉会員
かつしか江戸川病院 院長
関東 CML 研究会代表
社会保険診療報酬請求書特別審査委員会審査委員



高島 正広 (顧問)

日本抗加齢協会 理事 関西支部 事務局長
社会福祉法人視覚障害者文化振興協会
国際障害者文化振興事業プロジェクトリーダー
NPO法人 ジャパンメディカルリンク 理事長
2025大阪関西万博 大阪府市パビリオン推進委員会
ヘルスケアWG 医療アドバイザー
公益財団法人ルイバストゥール医療研究センター



西野 勝弘 (法務顧問)

日本国際警察協会 理事
法務省保護司
近畿大学校友会参与/(台湾)国立中正大学 顧問
日本行政書士連合会暴力団等排除対策委員会 委員
大阪府行政書士会暴力団等排除対策委員会副委員長
公益財団法人大阪府危険物安全協会評議員



萩原 国博 (事務局長)

国連世界平和協会人権大使【文化・芸術】
ステラ・コーポレート株式会社CEO
株式会社河内新聞社 執行役員特別顧問
日本国際警察協会サポート会員
早稲田大学 料飲稲門会友好会員
合同会社ケミステラ 最高執行責任者
レッツゴー万博2025実行委員会実行副委員長

委員(順不同)

- 朝倉 恒治 (統括委員)
- 豊田 浩之 (代表補佐官)
- 丸山 弘晃 (実行委員)
- 長谷川 周作(広報委員)
- 森田 誠 (執行委員)
- 竹本 誠司 (上席委員)
- 河邊 優 (上席委員)
- 伊野 達亮 (秘書)
- 寺田 常德 (上席評議委員)
- 川嶋 舟 (上席評議委員)
- 檜山 洋子 (上席評議委員)
- 久保田 有子(上席評議委員)
- 坂元 宏文 (評議委員)
- 嶋倉 英晃 (評議委員)
- 相馬 宏文 (評議委員)
- 金 範埃 (評議委員)
- 小西 康雄 (評議委員)
- 伊東 和彦 (評議委員)
- 森 栄二 (評議委員)
- 本田 光司 (評議委員)
- 本條 智志 (評議委員)
- 前田 義広 (評議委員)
- 小林 和明 (評議委員)
- 岸ノ上 明広(会員)
- 小林 秀徳 (会員)
- 矢尾 晋一 (会員)
- 北野 俊太郎(会員)
- 松永 直也 (会員)
- 本田 重憲 (会員)
- 松本 一利 (会員)
- 松村 太輔 (会員)
- サブールワールシ(会員)